未来を拓くナノ医療

Nano Medicine leading to the Future Medicine

金澤 秀子[1], 菊池 明彦[2]([1]共立薬大,[2]東京女子医大先端生命医研)

ナノテクノロジーは、21 世紀の科学技術としてライフサイエンスの分野でも大変注目されています。米国国立衛生研究所（NIH）は、NIH ロードマップ（Roadmap's）の一環としてナノ医療センター（Nanomedicine Centers）を開設することを発表しています。米国最大の研究所が正面からナノバイオに取り組み始めている現在、改めて国内の医療分野への応用を目的としたナノテクノロジーを取り上げる必要があると考えました。

本シンポジウムでは、革新的に進歩しているこの分野で、画期的な「ナノテクノロジー」を実現している研究について、オリジナリティーの高い研究を対象としてプログラムを組みました。ナノバイオテクノロジー、ドラッグデリバリーなどのキーワードで、現在実現しているものから、近い将来画期的な技術に確実に結びつくことが予想される研究について活発な情報交換をしたいと考えています。これらの研究は、未来の医療と健康をささえるキーテクノロジーであり、「医療」の分野において、我々は今後益々「ナノテクノロジー」の恩恵を受けることになるでしょう。そして、画期的な「ナノ医療」を実現するためには、専門分野の枠組みを超えた研究者間の交流や共同開発研究が不可欠であると考えます。